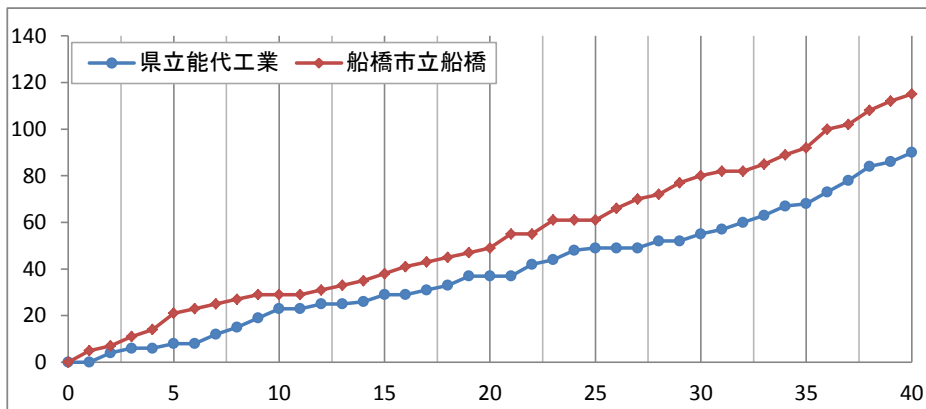


平成25年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技 第66回全国高等学校バスケットボール選手権大会

男子 2回戦 **県立能代工業 90** (秋田) ● **115 船橋市立船橋** ○ (千葉)

主審 相原 伸康
副審 鈴木 悟

No. 30f4 日時: 2013年7月30日(火) 15:00 会場: 大分県立総合体育館



県立能代工業

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 松本 大河 (C)	5	0	2	1	5
5	* 佐々木 健登	17	0	8	1	4
6	中島 強太	13	1	3	4	3
7	* 小田桐 匡志	38	4	9	8	3
8	湊 俊樹	0	0	0	0	5
9	* 砥綿 啓伍	15	1	5	2	3
10	荒木 直	0	0	0	0	1
11	安保 友貴	-	-	-	-	-
12	三根 一求	0	0	0	0	0
13	長谷川 暢	2	0	1	0	1
14	斉藤 大輔	-	-	-	-	-
15	* 中村 碧社	0	0	0	0	4
コーチ	佐藤 信長					
合計		90	6	28	16	29

船橋市立船橋

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 阿部 諒 (C)	30	1	8	11	2
5	川島 翔吾	0	0	0	0	0
6	* 高澤 淳	16	4	1	2	2
7	* 山本 健太	17	0	6	5	4
8	* 佐々木 弘太	3	0	1	1	0
9	榎 雄大	10	2	2	0	3
10	柘植 晴登	0	0	0	0	0
11	山崎 豊	1	0	0	1	1
12	平良 彰吾	4	0	2	0	0
13	戸田 貫太	6	0	2	2	1
14	* 青木 太一	28	0	12	4	3
15	杉田 涼	0	0	0	0	0
コーチ	近藤 義行					
合計		115	7	34	26	16

*...スターター (C)...キャプテン 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

第1ピリオド、県立能代工業ゾーンDef、船橋市立船橋ハーフマンツーマンDefでスタート。船橋市立船橋は#4、#14を中心に得点を重ねる。県立能代工業はドライブやミドルシュートで得点を狙うが船橋市立船橋の厳しいDefに阻まれる。6-16となった所で県立能代工業はタイムアウト。その後、県立能代工業のスリークォーターからの1-2-2、2-1-2ゾーンが効いて、#7の3Pや#9のシュートが決まって追い上げ、23-29で終了。第2ピリオド、県立能代工業は#9や#6のドライブで果敢に攻めるも、3分間ノーゴールが続く。この間、船橋市立船橋は#4や#7のミドルシュートなどで着実に得点を重ねる。中盤以降も県立能代工業はドライブからの展開で仕掛けるも船橋市立船橋の厳しいDefを攻めあぐむ。その後も、#9の連続ゴールなどで得点を加えた船橋市立船橋が徐々にリードを広げて、37-49で前半終了。

第3ピリオド、船橋市立船橋は開始早々#4、#7の連続6得点。たまたま県立能代工業はタイムアウトを取るも、船橋市立船橋は#6の3Pや#14のバスケットカウントで加点していく。中盤から、県立能代工業のチームDefが機能して相手のミス誘って、#6ドライブや#5のミドルシュートで反撃する。終盤、船橋市立船橋は3-2ゾーンDefにチェンジし県立能代工業の反撃を防ぎ、攻撃では#4、#9などが次々に得点を重ねて、さらにリードを広げて、55-80で終了。第4ピリオド、県立能代工業はオールコートでの厳しいダブルチームDefで相手のミス誘い、#6のミドルシュートや3Pで追い上げを図るが、船橋市立船橋は#14、#7のミドルシュートや相手ファウルからのフリースローを丁寧に決めてリードを保つ。中盤以降、県立能代工業は#5の3Pや#9のミドルシュートなどで攻めるも得点差は縮まらずに90-115でタイムアップ。チームDefで粘る県立能代工業に対して、高い得点力の船橋市立船橋が勝ったゲームであった。

© 2013 大分県バスケットボール協会 記者 尾形 公一郎 (所属) 大分県バスケットボール協会